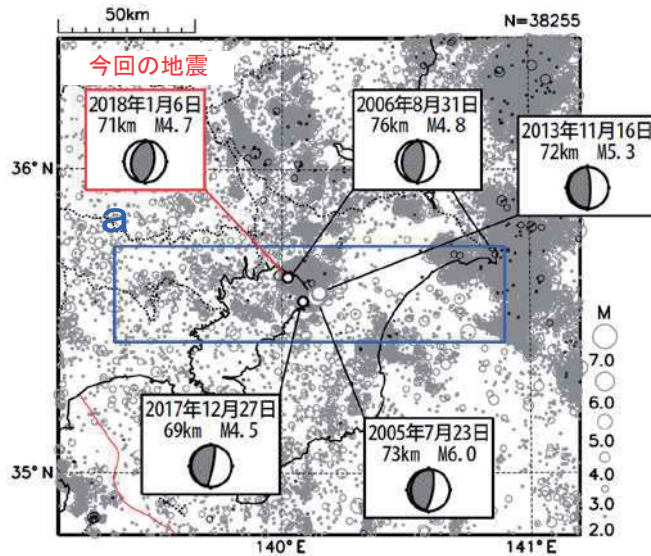


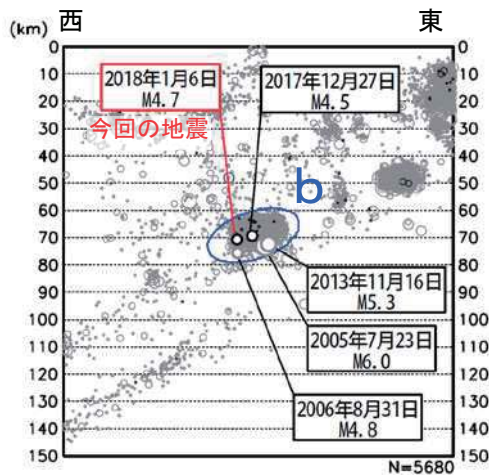
1月6日 東京湾の地震

※情報発表に用いた震央地名は「千葉県北西部」である。

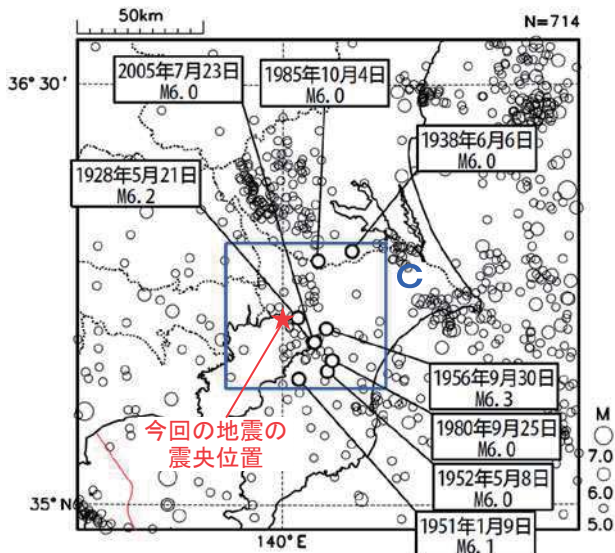
震央分布図
(1997年10月1日～2018年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)
2017年12月以降の地震を濃く表示



領域a内の断面図(東西投影)



震央分布図
(1923年1月1日～2018年1月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

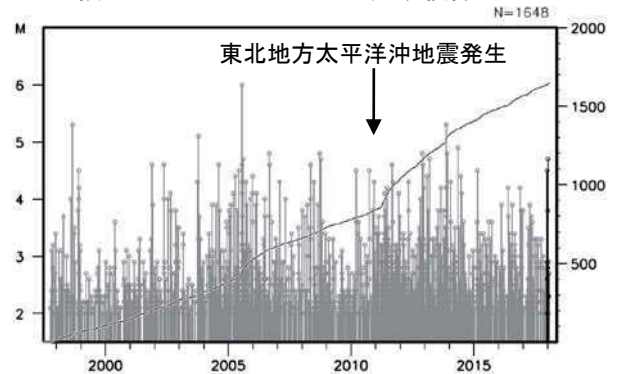


2018年1月6日00時54分に東京湾の深さ71kmでM4.7の地震(最大震度4)が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。今回の地震の震源付近では、2017年12月27日にもM4.5の地震(最大震度3)が発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)は、M5.0以上の地震が時々発生するなど地震活動が活発な領域であり、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動がより活発になっている。最近では、2005年7月23日に発生したM6.0の地震(最大震度5強)により、負傷者38人、住家一部破損12棟などの被害が生じた(総務省消防庁による)。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0程度の地震が時々発生している。このうち、1980年9月25日に発生したM6.0の地震(最大震度4)では、死者2人、負傷者73人などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

